

平和行進のあゆみ

平和行進は1958年6月20日、ヒロシマの原爆記念碑の前から8月に東京で開催される第4回原水爆禁止世界大会に向けて「地球上から核兵器を追放することを国民に呼びかける」ために、日本山妙法寺の故西本敦上人の呼びかけで同寺の僧が中心に歩いたことが始まりです。

翌59年には、第5回世界大会が開かれる広島に向けて東京・沖縄・新潟から行進が行われ、以来毎年続けられています。

1958年、第1回の平和行進から67回、核兵器の廃絶と平和を求めて歩く行動は、平和を願うすべての人が、一歩でも二歩でも一緒に歩くことによって行進はリレーされ、その願いや想いも紡がれ引き継がれます。

誰もが参加できる国内最大の反核、平和運動として受け継がれてきました。

愛知では、かつて市民生協を中心として取り組んだ市民平和行進と国民平和大行進を統一して結び、一緒に歩くためにできた「あいち平和行進共同連絡会」（1995年スタート）が母体となり、「あいち平和行進」（2001年～）として全国の平和行進の一環で愛知県内を歩いています。

